

地球科学研究科

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	13 (13)		10 (19)		1 (1)		— (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	20 (23)			16 (19)			— (3)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (1)	— (2)	1 (2)	3 (1)	6 (13*1)			
	退学者	1 (4)	— (2)	3 (1)	— (—)	— (—)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 地球科学研究科の活動

平成12年度に発足した生命環境科学研究科の地球環境科学専攻と地球進化科学専攻は、従来の地球科学研究科の2専攻が母体になっており、現在でも地球科学研究科とは実質的には一体化して教育が進められている。本年度の本研究科の大学院生は5年次生のみとなっているが、新研究科の発展・充実にともない、両研究科の各専攻でより密接な連携が構築されている。地球科学研究科は博士論文作成の指導を中心とした機能をもちつつあるが、結果として課程博士修了者は昨年度よりも9名減となっている。

2 教員の教育業績評価の状況

本研究科の教育業績評価は、担当教員の研究活動成果（発表論文等）および大学院生育成業績（修士論文・博士論文等）の両面から総合的に行われてきた。これらに関する資料は、開学以来、地球科学系定期出版物“Annual Reports of the Institute of Geoscience, University of Tsukuba”に年次ごとに掲載され、国内外に広く公開されている。また、1996年度から、国際学会関連活動、文部省科学研究費関連活動、共同研究関連活動、各種受賞等の業績報告を各教員に依頼し、研究科内の参考資料として活用している。今年度も文部科学省により提示された「21世紀COEプログラム」に向け、関係する各教員、指導大学院学生等に関する教育・研究実績の収集・整理を行った。

3 自己評価と課題

上記学系出版物Annual Reportは海外研究機関に約1200部、国内研究機関に約500部配付されている。これを通じて地球科学研究科の活動状況は国内外に公開され、さらに外部の評価を受けているものとみなすことができる。本年度は前年度と比較して大学院生は2分の1に減少したものの、発表論文数と学会発表数には大きな減少はない。今年度もテーチングアシスタントを雇用することができ、院生の教育能力と経済基盤の向上を図ることができた。生命環境科学研究科総合研究棟が2002年末に完成し、平成15年度はじめまでに地理・水文学専攻大学院生、地球環境科学専攻生および生命共存科学専攻の大学院生が移動することになる。全体的に院生用の研究空間には余裕が生まれるが、一方で同一研究科内の2つの専攻が物理的に分離されるという問題が生じる。

4 その他特記事項

1～4年次の大学院生は生命環境科学研究科に所属しており、大学院生の研究活動は5年次生以上を対象とした。なお、今年度中に学位修得できない5年次生は、生命環境科学研究科に移り、地球環境科学専攻と地球進化科学専攻でそれぞれ研究を行うことになる。